

活動プログラム	No.17 田植え体験		
期待される効果	 環境学習	 食育	 地域文化
プログラム概要	日常、袋に入れてスーパーなどに並んでいる農作物を、実際に農地で稲刈り体験を通じて、自らの手で作業することで、自然を相手にした仕事の苦労や楽しさ、また食への感謝の気持ちを感じることができます。		
対象	なし	人数	40人（1クラス）
時期	5月下旬から6月上旬	場所	美方高原体験農園場
金額	体験プログラム料金表参照	大人の人数	1クラス40人に2名以上

準備物	団体ごと	救急セット、行動食、虫よけスプレー
	服装 個人装備	リュック、カッパ（上下セパレート）、タオル、水筒、帽子 長袖、長ズボン、軍手、汚れても良い服装 ※水田では素足で入ります
美方高原で レンタル可能な物		荷物置き用ブルーシート、水生昆虫観察容器等

活動のタイムスケジュール（例）

時間	運営	安全上のポイント
8:30	自然の家玄関前集合	持ち物や服装の確認、体調チェック
9:00	出発 講師紹介 作業開始 2グループで交替で作業する 待機グループは自然観察、水生昆虫観察 苗を20本程度片手に持ち3～4本を植える 植えたら後退し、自分の足跡を手で埋める 全員が一行植え終わり全員後退し準備が出来たら指導者の合図で植える ※ 繰り返し作業 田んぼ脇で手足をあらう。	事前にトイレを済ませておく 道路は右側通行一列で歩く 田んぼの畔は滑りやすいため慎重に移動 ブヨなどの虫刺され予防 水分補給、行動食 裸足での移動が多いため走らない
11:30	施設へ移動 12時解散	

補足ポイント

- 事前に農業（米作り）について予習しておき質問事項をまとめておくと効果的です。
- 引率者は下見の際に農地を確認しておいてください。
- 虫刺され対策で虫よけスプレーなどを事前に使い予防します。
- 緊急時は施設の車でピックアップすることもできます。
- 訪ねたいことを班ごとにまとめ、分かりやすくしておくと、効果的です。
- 作物（食べ物）を扱うことの意識を高める指導をしておきます。
- 田植え体験参加者1人に対し後日0.7合の精米したお米を送付させていただきます。
- 稲の生育や気温により田植え時期が若干変更する場合があります。

活動 プログラム	No.17	田植え体験
-------------	-------	-------

予期されるリスク	リスクに対する対応
田んぼ畔での転倒	田んぼの畔は滑りやすく転倒リスクが高い。走らない。
ブヨ、アブ対策	虫よけスプレーなどで事前に対策
熱中症、脱水症状	塩分や十分な水分を準備するよう伝える。服装も調節を促し、日陰での休憩をとらせる。肌を露出させず、日焼け止めの使用を促す。
ハチ、ヘビとの遭遇	ハチやヘビとの遭遇した場合の対応を伝えておく。また村までのルート以外には入らせない。車道の付近のハチの巣の駆除。
天候不良	当日の天候や予測を確認し、著しく悪化する場合はプログラムの時間変更、もしくは中止する。
その他のケガ、体調不良	救急バックを携帯し、応急手当の準備をする。事前の体調調査、当日の確認を行い、バックアップ体制を整えておく。

事前点検・準備事項

農業担当者への依頼確認
農作物の生育状態確認
参加費、米の送付案内が出来ているか。
引率者が事前に田んぼの下見が出来ているか
天候の情報を確認して、適切な対応をしたか。
参加者の年齢、人数、スタッフ数、体調面などの情報は入っているか。
運営方法やタイムスケジュールは明確で共有されているか。
施設準備物は使用可能な状態か。または数は揃っているか。
参加者もしくは団体への持ち物の伝達は行ったか。

活動時のインストラクション（必須事項）

田んぼは滑りやすいので絶対に走らない。
観察タイム時に、動植物に触れる場合は必ず軍手をつける。
衣服での体温調整を行うこと。
ハチ、ヘビと遭遇した場合は、刺激せず距離をとること。